

Without Boundaries
Masterpieces of Edo Painting
from the Takisuken Collection

江戸絵画 縦横無尽!
摘水軒コレクション名品展

岡本秋暉
Okamoto Shūei
百花百鳥に挑んだ
江戸の絵師
摘水軒コレクションを中心に

Myriad Birds and Flowers
Painting by Okamoto Shūei
from the Takisuken Collection

2024年6月28日[金]～8月25日[日]
前期: 6月28日[金]～7月28日[日] 後期: 7月30日[火]～8月25日[日]
休業日: 7月1日(月)、8日(月)、29日(月)、8月5日(月) ※第1月曜日は全館休館 ©開館時間: 10時～18時(金、土曜日は20時まで) ※入場受付は閉館の30分前まで

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

〒260-0018 千葉市中区中央3-10-8 Tel. 043-221-3311(内線) <https://www.coma-mat.jp>

名品、稀品、縦横無尽! 江戸絵画の魅力を堪能する2つの展覧会を同時開催

- 孔雀といえば岡本秋暉。最晩年の作品まで約100件の作品で画業を総覧
- 華山・椿山ら同時代画家の作品から秋暉が仕えた小田原藩ゆかりの作品も
- 重要文化財から無名の画家によるユニークな作品まで、江戸絵画の楽しさを再発見!

会 期 2024年6月28日(金)～8月25日(日)
前期 6月28日(金)～7月28日(日) 後期 7月30日(火)～8月25日(日)

開館時間 10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで) ※入場受付は閉館の30分前まで

休 室 日 7月1日(月)、8日(月)、29日(月)、8月5日(月) ※第1月曜日は休館日

観 覧 料 一般1,400円(1,120円)、大学生800円(640円)、小・中学生、高校生無料
※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料 ※(※)内は前売り、市内在住65歳以上の方の料金 ※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ、ローソンチケット(Lコード:31752)、セブンイレブン(セブンチケット)、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて1月5日まで販売(1月6日以降は当日券販売)。
◎ナイトミュージアム割引:金・土曜日の18:00以降は観覧料半額
◎本展チケットで5階常設展示室「千葉市美術館コレクション選」もご覧いただけます。

主 催 千葉市美術館、摘水軒記念文化振興財団 特別協力 平塚市美術館、府中市美術館

記者レクチャー・内覧会

一般公開に先駆けて報道関係の皆様を対象に、記者レクチャーおよび内覧会を行います。
展覧会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧いただけます。

2024年6月27日(木)14:00～(13:30開場) / 8階展示室にて

参加ご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、メールまたはFAXにてご連絡ください。

展覧会概要

— 滴水軒コレクションを中心に

江戸の絵師 百花香鳥に挑んだ 岡本秋暉

岡本秋暉（1807-62）は濃厚華麗な花鳥画、とりわけ孔雀の名手として名を馳せた江戸後期の画人です。彫金家・石黒家の次男として生まれた秋暉は、南蘋派の大西圭斎に画を学び、20代から絵師として活躍していました。一方で小田原藩・大久保家に仕える藩士としての顔も持ち、江戸中屋敷での見回り役を務めながら精力的に制作を続け、同時期に活躍した渡辺華山や椿椿山らと親交を結びました。

彼が最も得意としたのは鳥の図です。懇意の小鳥店に通い写生に励んだという逸話もあるほど、鳥の描写をひたすらに研ぎ澄まし、透明感溢れる華やかな色彩と、羽の美しさを描き尽くす驚異的な技巧で江戸の人々を魅了しました。

実に18年ぶりの回顧展となる本展では、世界一の秋暉コレクションを擁する滴水軒記念文化振興財団の所蔵品を中心に、約100件の作品で、生い立ちから画業を通覧します。細緻を尽くす花鳥画から、藩主の御殿を飾った杉戸絵、小田原が誇る偉人の肖像画《二宮尊徳座像》（報徳博物館蔵）まで。その作品群からは、自らを花鳥の画家として認識して技量を磨きながら藩士としての任も果たし、さらに同時代の画家達の活動に目配りしながら中国画的摂取に努める、堅実な画人の姿が浮かび上がります。彼が生涯をかけて紡ぎ出した鮮やかな花鳥の楽園を、どうぞ堪能ください。

滴水軒記念文化振興財団は、岩佐又兵衛《弄玉仙図》（重要文化財）をはじめとする肉筆浮世絵や、伊藤若冲《旭日松鶴図》等の花鳥・動物画を核とする国内有数の江戸絵画コレクションを所蔵しています。同財団のルーツである寺嶋家は江戸時代、柏村の名主を務め、水戸街道沿いの居宅「滴水軒」は文人墨客が集う文化サロンの役割を果たしていました。

現在の同財団所蔵品は、寺嶋家に逗留したという幕末の絵師・岡本秋暉の作品をはじめとする伝来品を母体とし、発展させたものです。肉筆浮世絵では菱川師宣、勝川春章、鳥居清長、東洲斎写楽といった代表的な絵師の優品が揃う一方、花鳥画・動物画では若冲や、円山応挙のような有名な絵師のみならず、江戸中後期を彩った南蘋派や洋風画、逸伝の絵師によるユーモラスな作品まで多岐にわたります。その収集はまさに縦横無尽。個人コレクションならではの自由で直感的な審美眼で選び抜かれた作品群は、見る者に江戸絵画の豊饒さ、純粋に絵と向き合うことの喜びと楽しさを語り掛けてくれることでしょう。本展は選りすぐりの約100件によって滴水軒コレクションの全容を紹介する、過去最大規模の機会となります。

江戸絵画縦横無尽!
Without Boundaries
滴水軒コレクション名品展
Masterpieces of Edo Painting
from the Falsisken Collection

本展の見どころ

●孔雀といえば岡本秋暉。最晩年の作品まで約100件の作品で画業を総覧

孔雀やオウムなど珍しい鳥の生態を小鳥店に通って観察し、写生を重ねたという逸話が残る岡本秋暉。江戸時代中期以降南蘋派の流行もあり、めでたい画題として孔雀が多く描かれるようになる中、花鳥画とくに孔雀を得意としていた秋暉は孔雀の画家として名を馳せました。18年ぶりの回顧展となる本展では、質量ともに世界一の秋暉コレクションを誇る滴水軒記念文化振興財団所蔵の作品を中心に、画業のはじまりである25歳の作品から56歳で亡くなるまでの作品を紹介し、生涯を花鳥画の制作に捧げ、技術を磨き続けたひたむきな画業を総覧します。

●華山・椿山ら同時代画家から、秋暉が仕えた小田原藩ゆかりの作品も

岡本秋暉の絵師としてのルーツといえる、実父で彫金家の石黒政美による鑢をはじめ、師であった大西圭斎の花鳥図、そして同時代に親交のあった渡辺華山や椿椿山の作品を紹介。一方、小田原藩江戸中屋敷に仕え、藩主御殿を飾った杉戸絵や小田原で農村復興の指揮者として名高い二宮尊徳の稀少な肖像画を描くなど、藩士としての側面も展示し、秋暉の全体像を知る機会となります。

●重要文化財から無名の画家によるユニークな作品まで、江戸絵画の楽しみを再発見!

同時開催の「江戸絵画縦横無尽!滴水軒コレクション名品展」では、重要文化財の岩佐又兵衛《弄玉仙図》をはじめ、伊藤若冲、鈴木春信、葛飾北斎の肉筆画といった名品だけでなく、無款でも愛らしい動物画や計23頭のクジラを描く《鯨図巻》といったユニークな作品までが揃う滴水軒コレクションをご紹介します。有名無名にかかわらず、個人コレクションならではの自由で直感的な審美眼で選びぬかれた豊かな100件の作品群を通して、純粋に絵と向き合う喜びと楽しさを感じてください。



岡本秋暉《孔雀図》江戸時代(19世紀) 板絵着色2面 小田原城天守閣蔵

滴水軒記念文化振興財団とは

千葉県柏市にある滴水軒記念文化振興財団のルーツは、江戸時代に柏村の名主であった寺嶋家の十三代目当主が開いた文化サロン「滴水軒」に遡ります。「滴水軒」には文人墨客が集い、当地の文化に貢献しました。昭和三十年に前身である「財団法人寺嶋文化会館」を設立し、現在は文化財事業を中核とする活動を展開しています。

■ 広報用画像一覧

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。ぜひ、本展をご紹介しますようお願いいたします。
ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにてご連絡ください。
画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。

「岡本秋暉 百花百鳥に挑んだ江戸の絵師—摘水軒コレクションを中心に」



1 岡本秋暉《白梅孔雀図》
安政3年(1856) 絹本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



2 岡本秋暉《百花一瓶図》
江戸時代(19世紀) 絹本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



3 岡本秋暉《百花百鳥図》
江戸時代(19世紀) 紙本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



4 岡本秋暉《名花双禽図》
安政2年(1855) 絹本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵

「江戸絵画縦横無尽! 摘水軒コレクション名品展」



5 岩佐又兵衛《弄玉仙図》
元和期(1615-24)頃
紙本墨画淡彩 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵

重要文化財



6 伊藤若冲《旭日松鶴図》
宝暦5-6年(1755-56)頃
絹本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



7 菱川師宣《美人立姿図》
元禄期(1688-1704) 絹本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵



8 葛飾北斎《雪中鷲図》
天保14年(1843) 紙本着色 一幅
摘水軒記念文化振興財団蔵

広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1申込について1回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
広報担当 磯野 行
E-mail : isono@ccma-net.jp
FAX : 043-221-2316

貴社名：	媒体名：
ご担当者名：	発行予定日：
TEL：	発行部数：
FAX：	定価：
Email：	掲載予定コーナー名等：
画像到着希望日： 月 日 時まで	画像の掲載サイズ <small>(おおよそで結構です 例：5cm 四方、など)</small> ：

■画像データ申込 (ご希望のデータの番号に○をつけてください。)

「岡本秋暉 百花百鳥に挑んだ江戸の絵師—摘水軒コレクションを中心に」

- 1 岡本秋暉《白梅孔雀図》安政3年(1856) 絹本着色 一幅 摘水軒記念文化振興財団蔵
- 2 岡本秋暉《百花一瓶図》江戸時代(19世紀) 絹本着色 一幅 摘水軒記念文化振興財団蔵
- 3 岡本秋暉《百花百鳥図》江戸時代(19世紀) 紙本着色 一幅 摘水軒記念文化振興財団蔵
- 4 岡本秋暉《名花双禽図》安政2年(1855) 絹本着色 一幅 摘水軒記念文化振興財団蔵

「江戸絵画縦横無尽! 摘水軒コレクション名品展」

- 5 岩佐又兵衛《弄玉仙図》(重要文化財)元和期(1615-24)頃 紙本墨画淡彩 一幅 摘水軒記念文化振興財団蔵
- 6 伊藤若冲《旭日松鶴図》宝暦5-6年(1755-56)頃 絹本着色 一幅 摘水軒記念文化振興財団蔵
- 7 菱川師宣《美人立姿図》元禄期(1688-1704) 絹本着色 一幅 摘水軒記念文化振興財団蔵
- 8 葛飾北斎《雪中驚図》天保14年(1843) 紙本着色 一幅 摘水軒記念文化振興財団蔵

■「岡本秋暉」展+「摘水軒コレクション名品展」 プレゼント用招待券申込 (ご希望の場合はチェックをつけてください)

5組10名様分 希望します。

(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談ください。)

チケット送付先

ご住所：〒

問い合わせ先

千葉市美術館

〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8

広報担当：磯野 愛

Tel. 043-221-2311 (代表) /043-221-2313 (直通)

Fax. 043-221-2316

E-mail isono@ccma-net.jp

HP <https://www.ccma-net.jp/>

Myriad Birds and Flowers
Painting by Okamoto Shūki from the Teksutsuken Collection

岡本秋暉

百花生鳥に挑んだ
江戸の絵師

—— 摘水軒コレクションを中心に



江戸絵画横
縦無尽！
Without Boundaries
摘水軒コレクション名品展
Masterpieces of Edo Painting
From the Teksutsuken Collection

記者レクチャー・内覧会 2024年6月27日(木) 14:00～ 8階展示室にて

報道関係の皆様を対象に披露説明会および内覧会を行います。
展覧会の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

[タイムスケジュール(予定)]

13:30～ 記者レクチャー会場へのエレベーター稼働・開場
14:00～ 担当学芸員より会場にてご説明
14:20～18:00 自由内覧
16:00～17:00 オープニングレセプション(11階講堂)

参加ご希望の方は下記項目にご記入の上、

E-mail: isono@ccma-net.jp または FAX: 043-221-2316

までご返信ください。

ご芳名

ご所属

貴媒体名

お電話番号

E-mail

問い合わせ先 広報担当 磯野 愛
Tel. 043-221-2313 (直通)
isono@ccma-net.jp

千葉市美術館
〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8
HP. <https://www.ccma-net.jp/>